

環境建築ガイドブック (p.47) 「環境コラム 」
(社) 日本建築家協会 環境行動委員会編著 建築ジャーナル刊 (発行 2007.11.20)

住まいの楽しいエコライフ

濱 恵介 / エコ住宅研究者、JIA 会員

エコ住宅は建築・設備だけでは本来の機能を発揮しません。そこには環境意識を持った住まい手のライフスタイルが鍵となります。「仏作って魂入れず」の喩えに似て、使い方・住まい方が「環境建築」の成否を左右すると言っても過言ではありません。

エコライフを代表するキーワードは、「省資源」と「省エネルギー」です。しかし、節約・省エネをケチ・我慢と捉えると楽しくありません。これを、スマート・さわやかに実践することで、生活の質や満足度はむしろ高まります。

エコライフは無駄の少ない暮らしです。まず、生きる基本の食料で見れば、食材は出来る限り地場の産物を選びましょう。パッケージを省き、無駄なく利用すれば廃棄物が減ります。残った生ゴミは土の栄養ですから、切り刻んで土に戻します。たとえ小さな菜園でも、自宅でできた野菜を食べることで食の安全や流通の無駄に敏感になります。

家具・什器は質の高い気に入ったものを求め大切に長く使えば、結局安あがりゴミになるのを先送りできます。屋外家具などは自作できます。天然木や自然塗料を使って作れば、不要になった時に薪ストーブの燃料となり粗大ゴミになりません。

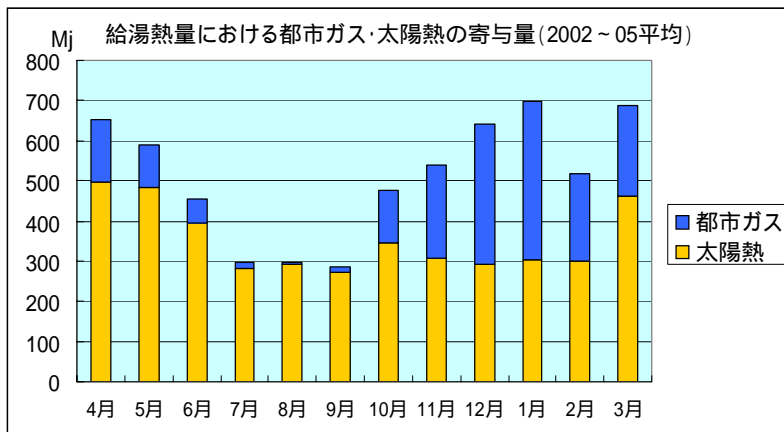
資源を大切にし、廃棄物を減らすことにも増して、省エネはエコライフにとって重要です。少ないエネルギー消費でほどほど快適に過ごし、手間を掛けつつ生活の質を高めることです。地球温暖化防止にも直結します。

省エネ性の高い器具を使う、待機電力をカットするなどは勿論のこと、エネルギー源の賢い選択も欠かせません。例えば調理の省エネでガスか電気を選択できる場合は、「一次エネルギー」で評価して環境負荷の少ないほうを選ぶべきです。IH調理器がいかにスマートでも、住宅に届く電気は火力発電所で消費されるエネルギーの40%しかないことや、原子力発電所が作り出す放射性廃棄物と施設の事故リスクを考えると、その利用がエコでないことが分かります。

元気ができる省エネには、効果が目に見え実感できることが必要です。その基本はまずエネルギー消費を記録すること、そして削減目標を立て実現を目指すことです。節約だけでなく太陽エネルギーの力を実感することにも勇気付けられます。太陽光による発電量、太陽熱温水器が沸かした湯の熱量など、成績が上がると嬉しく達成感もあります。

一方、今の日本の制度では、再生可能エネルギーが利用者の経済的利益につながりません。世界的には、太陽光発電の電力を高単価で買い取り保障する“Feed-in Tariff”制度が普及しつつあります。エコ住宅の一般化には、建築家・生活者の善意に頼るだけでなく、実利を伴う諸制度の実現が必須条件です。

(挿入図版：次ページに)



太陽熱温水器で給湯用の都市ガス消費を大幅削減



夏は光触媒シートで天空光を享受し熱を遮る



薪ストーブは冬の楽しみ、焚き木集めもまた楽し